

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H04998	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	Mapping Habitable Planetary Environments with Exoplanet Imaging	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	Guyon Olivier (国立天文台・ハワイ観測所・ RCUH 職員)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、固体の水が形成される境界線よりも内側に軌道を持つ太陽系外惑星を、大型望遠鏡によって直接観測することを目的としている。具体的には、補償光学のための3000素子の可変形鏡、及び主星からの小さい離角での高コントラスト観測のための新しい重要な手段として期待されるナル干渉・フォトニックチップ装置の開発を行う。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>3000素子可変形鏡の性能不足という当初予見できなかった遅れに対し、開発スケジュールを変更し、全体の工程に影響しないように開発・試験を進めている。それ以外の機器(高速・高感度波面センサーなど)の開発では検証実績が着実に蓄積されつつある。また、現在の観測システムを用いて2つの系外惑星を発見しており、いずれも科学的に重要な意義を持つ成果となっている。</p>		